

2009年3月25日

東京都がん対策推進協議会患者委員

NPO 法人 ブーゲンビリア理事長

東京都女性がん対策委員会事務局長

内田 絵子

## 「東京都の女性がん」の死亡率を減少するための意見書

どうしたら東京都から女性がんの年代別死亡率を減少させることができるのでしょうか。東京都の死亡率は 68.9%です。全国ワースト5位です。東京都が本当にかん医療をどうするのか、どんな病院に・医師に・標準治療を・病院連携を進めてもらうのかを明確に打ち出し、全体のグランドデザインというものを描き、示すことが、死亡率削減には必須と考えます。全国平均より多くの死亡数、毎年330人の東京都の女性が亡くなっているのです。女性がんの死亡率を削減するための意見を提出させていただきますのでよろしくご検討をお願い致します。

## &lt; 東京都の女性がん・東京都のがんの死亡率を削減するために &gt;

- ① 乳がんの検診・治療・緩和ケアまでの一貫した東京都乳がんネットワーク部会の開催。
- ② 子宮頸がんの予防ワクチン導入・検診・治療・緩和ケアまでの一貫した東京都子宮頸がんネットワーク部会の開催。
- ③ 卵巣がん治療・緩和ケアまでの一貫した東京都卵巣がんネットワーク部会開催。
- ④ 東京都女性がんを考える連絡協議会の設立。
  
- ⑤ 東京都がん対策条例の作成（島根県・高知県・新潟県を参考に議員条例を早急に）
- ⑥ 東京都がん対策基金の設立
- ⑦ 国のコールセンター設立への支援  
24時間・365日対応する。患者や家族等の不安や悩みの軽減と患者必携と読み合わせて患者教育や療養上の相談に対応。
- ⑧ 都の交通局のバスにがん啓発のステッカーを貼る、交通機関の駅広告など使用されていない枠がある。都のがん対策キャンペーンのPRを費用対効果がある。
- ⑨ 区部と多摩地区などの医療格差が大きい。がん対策や啓発の格差も大きい。
- ⑩ ピアカウンセラー、相談支援センターの合同研修の実施とがんセンターソーシャルワーカーや外部有識者、患者を交えた小委員会でピアカンマニュアルを作成し、東京都として全国にその成果を示す。

以上